

キーボードに慣れよう！

文系理系、学部を問わず、大学では、パソコンを活用した授業も多くあります。パソコンに慣れるには、タッチタイピングが必須です。ぜひ、皆さんも、正しいタッチタイピングができるように練習してください。タッチタイピングのソフトは、フリー、市販を問わずたくさん出ています。このようなソフトを使って練習してみるのも上達への第一歩です。

以下は、こうしたフリーソフトの使用を想定した練習です。

タッチタイピングの基本

- ・正しい姿勢をとり、体で覚えていきましょう。
- ・キーボードを見ないでキーを入力します。
→そのためには、正しい指使いで、キー入力をするのが重要です。誤った指使い、自己流のクセのある指使いでは、キー入力の速度は伸びません。
- ・慣れることが大切です。繰り返し練習しましょう。

指の条件反射作り

- ・指を動かしながら、ディスプレイに表示された文字を見ます。
→目・脳・指につながりができます。スポーツと同じで練習を重ねることで、だれでも習得できます(これをバイオフィードバック効果と言います)。

日本文入力は、ローマ字入力が簡単

- ・ローマ字入力は、かな入力に比べて使用するキーが少なくてすみます。

ローマ字入力を早く覚えるには？

- ・キーの基本ポジションである、「F」、「J」を手がかりに、キーボードを見ないで、「あいうえお」に対応する「A I U E O」を入力できるようにしましょう。つぎに、「K」の組み合わせでできる「かきくけこ」、「S」との組み合わせの「さしすせそ」といったように、段階を踏んで練習をしましょう。ある程度覚えたら、文字だけではつまらないので、単語で入力し覚えるようにすると飽きません。



タブの使用に慣れよう！

タブは、キーボードの左側にあり「tab」と書かれているキーです。このキーは、英文の文頭のインデントなどに使うキーで、タブキーを押すと、何文字分かのスペースを開けてくれます。スペースキーを連打して作ったスペースでもタブキーによるスペースでも見かけ上は、変わりませんが、作ったスペース上でカーソルを動かしてみるとカーソルの動きの違いでわかります。ワープロソフトでは、タブで作ったスペース幅は、後から変更することができます。ワープロソフトによりタブのスペース幅は異なる場合もあるため、タブとスペースを混在させないようにしましょう。



キーの基本ポジション

- ・左の人差し指は「F」、右の人差し指は「J」に配置します。
→一般にキーボードの「F」と「J」の文字には、印があるので見なくてもわかります。はじめのうち、手の移動中はキーボードを見ても構いません。キーボードを押すときは必ずディスプレイを見ましょう。ディスプレイを見ていないと、条件反射作りになりません。

ローマ字入力でわかりづらい文字の一例

ぢ (DI)
じ (JI、ZI)
ひゃ (HYA、HILYA)
ひょ (HYO、HILYO)
まっぷ (MAPPU、MALPU、MAXPU)
とぅ (TOLU、TOXU)
つづく (TUDUKU、TSUDUKU)
でい (DHI)、でゅ (DHU)
ヴ (VU) など

なかなか簡単には
いかないんだよな。
精進あるのみ!



ソフトウェアの活用

ソフトウェアステーションでは、Microsoft Office365をはじめとする各種アプリケーションを学生の個人PCにダウンロードし、利用できるサービスを提供しています。利用可能なアプリケーション等、詳細についてはソフトウェアステーションのHPを確認してください。

ソフトウェアステーション <https://software.k.hosei.ac.jp/>

